

第7回

学校教育審議会会議録

交野市教育委員会

1. 開 会 令和6年10月22日（火）午後5時30分
2. 閉 会 令和6年10月22日（火）午後6時55分
3. 出席委員 近藤 裕敏会長・巽 憲次郎副会長・狩野 博美委員・藤川 中委員・
恒松 小百合委員・北 春城委員・伊藤 仁委員・伊藤 雄貴委員・野
口 明子委員・三浦 晃裕委員・藤丸 一郎委員・早川 透委員・東 恵
美委員
4. 事務局 大湾 喜久男教育次長兼教育総務室長・和久田 寿樹学校教育部長・内
山 美智子学校教育部長・西岡 浩二生涯学習推進部長・井上 成博学
校教育部次長・本多 章博生涯学習推進部次長・堤下 栄基教育総務室
長代理・坂元 智紀学務保健課長・出村 公一学校給食センター所長・
大隅 昌之指導課長・花田 睦美まなび未来課長・佐伯 尚之社会教育
課長・西口 香苗青少年育成課長・福田 道正図書館長・近田 恵美教
育総務室係長
5. 案件事項 1. 学校教育ビジョンについて
2. その他
6. 議事内容
会長 定刻となりましたので、ただ今から、第7回交野市学校教育審議会を
開催いたします。
委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中、ご出席いただきまして
ありがとうございます。
（会長 時候挨拶など）
まず、議事に入ります前に、事務局に、本日の委員の出席状況を報告
していただきます。
- 事務局 本日の審議会の委員の出席状況をご報告いたします。
本日の出席委員は15人中、13人の委員に出席していただいておりますので、交野市学校教育審議会条例第7条第2項の規定により、半数
以上の出席がありますことから、本会議が成立していることをご報告い
たします。
- 会長 次に、本日のこの会議でございますが、交野市会議の公開に関する指
針に基づき、公開にしたいと思いますが、異議ございませんでしょうか。
- 各委員 （異議なし）

会長 異議がないようですので、公開にしたいと思います。
事務局、傍聴希望者はおられますでしょうか。

事務局 希望者はありません。

会長 本日は傍聴希望がありませんので、このまま会議を続けたいと思います。
それでは、次第2「学校教育ビジョンについて」を議題といたします。
前回の審議会においては、新学校教育ビジョンについて、皆さまからご意見をいただきました。
皆さまからいただいたご意見を事務局にて検討、修正等が行われたので、まず、修正後の学校教育ビジョン案について事務局より説明いただき、検討を進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いします。
本日は、種々決めていける部分については、順次決定を行ってまいりたいと思います。
本日もまず、第1章、第2章の順に協議し、その後第3章に進みたいと思います。
それでは事務局、まず、第1章及び第2章について説明をお願いします。

事務局 それでは、まず、第1章について説明します。
2ページの中ほどの③本文1行目「特に親子」という言葉は強調する必要があるのか、むしろない方がよいとの意見から削りました。
4ページ下の図、真ん中の赤囲みに白文字ですが、元々黒字でありましたが、黒字は見にくいため白地に変更しました。また、年度ごと「に」を年度ごと「の」に変更しました。
同じく4ページですが、「広報やホームページ等を通じて、」の部分については、外に出して矢印のところに示し、右側のカッコ書きには「家庭や地域」だけの記載としています。
次に第2章について、ご説明いたします。
9ページ本文4行目ですが、小学校の後に「及び義務教育学校においては前期課程」を加えておりますが、この後も出てきますが、「小学校」や「中学校」と表現すると、義務教育学校前期課程の児童や義務教育学校後期課程の生徒が含まれないこととなりますので、この後に出てくるものについても同様の変更を加えております。
9ページの「ICT 機器の」からの部分ですが、「働き方改革があるからICTの活用やクラブ活動の地域移行があるように見える」というご

意見がありましたので、「ICT の活用やクラブ活動の地域移行を行う」ことにより働き方改革につなげると変更しました。

その下の「応える」「応じた」の変更部分について、委員より「応じた」の方が読みやすいと思うとのご意見をいただいております。

また、その下の「全中学校区」の部分ですが、中学校区となりますと、交野みらい学園の校区は含まれないこととなりますことから、「全校区」に改め、ページの一番下に米印にて校区の注釈を入れております。以下、全中学校区や中学校区の表現が多く出てきましたが、中学校区という表現だけだと、義務教育学校が含まれないため、注釈を入れております。

中ほどの赤色表示の「及び義務教育学校」の後の「９年間教育」については、物理的な９年間を示しているだけであるとの意見がありましたので、「教育」という文言を削っています。

同じく９ページ中ほど「保護者や地域にもわかりやすいものとなるよう努めます。」の部分については、「さらに９年間教育を充実させる、バージョンアップさせる」というような文言にしてはどうか、とのご意見がありました。前々回の審議会において、交野みらい学園校区以外の児童生徒・保護者・地域にはどのような運用で進めていくのか不明というご意見があり、前回「保護者や地域にもわかりやすいもの」等を入れたものですので、現状のまま残しております。

同じく９ページ、「適切な学校運営」について、委員から案として「学びの感動をつくる学校」「子ども主体の学校」「そよ風が流れる学校」とのご意見をいただきましたが、総合的に考え、一般化した言葉として、事務局案、活力の元になる力ということで、「活力ある学校」を提案させていただきたいと思っております。以下 10 ページ及び 16 ページの施策の柱も同様です。

また、こちらにつきましては、委員より「質の高い学校運営」という案と「より良い学校運営」というご意見をいただいております。

11 ページの一番下の「交野スタイル」ですが、「９年間教育」では現場ではイメージがわからないとのご意見もありましたが、交野での「９年間教育」を「交野スタイル」を称するということで、表紙の方にも「「９年間教育」交野スタイル」とさせていただいておりますので、現状といたしております。

12 ページ一番上の長い矢印の一番右「９年間の緊密な連携」については「９年間教育の推進」に変更しております。また、連携という言葉を削除するという主旨から、一番下の「小・中連携を表している」という部分も削除いたしました。

また、中ほどの矢印の中の「小学校６年」「中学校３年」につきましては、義務教育学校の児童・生徒も含まれることから、それぞれ「義務教育学校においては云々」という文言を追加いたしました。

その他、誤字・脱字や行ずれなどについては、順次修正を行っております。

以上が第1章及び第2章の変更点になります。

会長

説明が終わりました。前回いただきましたご意見をもとに事務局の方で検討され、修正が行われております。

では第1章1ページから7ページまででご意見等ありましたらお願いいたします。

特に第一章についてご意見が無いようですので、次に進めさせていただきます。

第2章につきまして、皆様ご意見がありましたらお願いします。

委員

9ページですが、ICT機器のところで、クラブの地域移行等進めることにより、教員の負担軽減を図ることによりと、ここに「より」が2つあるので「進め」で前は切ったらいいのではないですか。

校区はコミュニティ・スクールは小学校区ではないと思ってたんですが、注釈つけていただいたので、その不安は解消されました。あと活力ある学校はとてもいいと思います。

会長

学校教育ビジョンの4つの柱というところで、前々回から出させていたいただいていましたが、適切な学校運営という言葉に対して活力ある学校という、他の3つと一緒に後ろに学校と統一したほうがいいという意見でしたが、どうですか。

活力ある学校、そこには子どもも教員も地域も、いろんなものが入ってくる学校ということです。

特に意見はございませんか。

では、これについては活用ある学校で出していきます。

他にございませんか。

委員

9ページ、事務局にお伝えしましたが、インクルーシブ関連の文言を文科省から出している文書があって、そのままの言葉を使った方がいいとお伝えしたので、ここは少し変わってくると思います。

事務局

修正します。

委員

前回からのこだわりで、「確かな学び」と「豊かな人間性」の順番を変えてほしいです。

事務局

前もお話しさせてもらったんですけど、今回は小学校高学年の学力の

課題があるということも明確にしたいということもありまして、こういう順番になったんですが、前回の意見といたしまして「情（こころ）」が重要であろうという意見もございますので、ここはもう少し各委員の方の意見をお聞かせいただいで決めていきたいと思っております。

会長

学校教育ビジョンの 4 つの柱、ここにつきまして、確かに前の教育ビジョンの時には 1、2、3、4 項目に数字がある。今回はそれがないというのが 4 つがいわゆる同じあつかいなのかなというふうに思います。

その中でやはり一番上にくるのは「情（こころ）を育む学校」というご意見がございました。

他にいかがでしょう。

事務局

実際は優劣をつけるということはないので、16 ページに書いてあるのが、左から順番に確かな学びがあって、「情（こころ）を育む学校」があるところが入れ替えた方がいいのかどうか、というような話になるのかなと思います。

委員

番号が付いていないとか優劣じゃないとおっしゃっても、前回と明らかに順番を変えていることだったり、前回も部長の発言でやっぱり学力をということだったので、それならなおのこと、これを前にしてほしいと思います。

委員

今の状態の直接説明だとどちらも同じで、ここは同じ扱いなんだっていうところは共有してそうなんだということを押さえた上で、逆にそれとは別に、前に来た方がなんとなく印象的に最初にこうあるのというようなところがあるっていうふうにおっしゃってて、逆にその最初にきた方が学力の方がいいという意見がないのであれば、どちらも同じかということを押さえた上で、気になる方が一人じゃなくていらっしゃるのであれば、そういうふうしておくというのも問題ないし、あくまでも学力を重視した結果ではないよというあたりは共有した結果、気になる人があるんだったら、そこを変更。逆にダメなんだということなら、もう少し話し合いが必要かなと思います。

委員

現場で子どもたちと接している校長先生が言われているのでそうしたほうがいいと思います。

委員

一保護者として安全で安心できる場は、「情（こころ）」を私は優先した方がいいと思います。

委員 それを優先するんだってなってしまうと思うので、これも置き場所の問題で本当にイメージの問題だけを優先するという、逆に「情(こころ)」を優先するんだ、順番を先にするんだと言うならばそうじゃないとなるんで、それはあくまでフラットに押さえておかないと。

会長 私もイメージ的にピラミッドを連想したんです。どれが一番でも関係ないので、だからどの面から見ても、とにかく この4つが大事なんだなっていうことになんですけど、委員が言われたように、一番ではないけども書いていく上ではそちらの方がいいという意見について、いやいやそうではなく以前の委員会でもやはり一番になって来るとの意見があり、格好が難しいです。

委員 文科省から出しているのも10年ごとに入れ替えたりしているくらいどちらもそうですが、別のことを言えば、置いたときに人間の注目するところはここから始まるみたいなのは確かにあるので、それが気になる。逆に気にならない方もいるので、他にもあるだろうということも想定してそうしておくということぐらいで、落としどころを見つけませんか。

委員 本来学校が学びで、家庭であれ地域が心とか作っていくものだと思うんですけども、この家庭とか地域の方も含めて心を作っていく力が低下している。その分学校にしてくれという要請ですよ。学校が「確かな学び」もやってくれて、豊かな心も育てほしいと、そういう凄いや要求が学校にされている中で、委員が言われたように豊かな心というのが学校という場でできる限り広げていくべきだと、まして9年間教育で小学校から中学校で行ってるわけですから。そういう中で委員が言われたように、それだけの学校が要請されているというのが背景にあると思うんです。

委員 意見としては、要請されてるからということではなくて、本当に大切なもので、学力ももちろん大切で、本当に子どもたちに力をつけるのは学校の責任っていうのはあるんですけど、別にそれは役割がどうかとかってということではなくて、本当に子どもの命を大事にするとか、子どもたちをあずかっていると、本当にこの間も運動会が終わったところで、今日も閉会式だけやったんですけど、本当に子どもたちは凄い輝きを持っているんです。それを大事にしながら、学校運営をしたいとはどの校長も思っていて、学力も大切ですが命がまず一番で、順番じゃないっていうのであれば、前回と何で順番が変わっているのということが

納得できなくて、やはり前のままの方がとてもいいと私は思います。

役割がどうかという話ではなくて、本当に子どもたちが大切なので、交野市としてこの子どもたちをどう育てていくかってなったら、「確かな学び」を先に出されると強烈な違和感を私は感じます。とても大事です学力は。だけど、それだけじゃないのもわかってほしいという思いですずっと喋っています。

委員

心が一番にきてたら、それ見た学校に関係ない方も、交野市なかなかいいよね、心が一番にきてるみたいないいい印象は持つと思います。

会長

これがあえて順位が付いていないんです。それが今回の委員会の狙いだと思います。ただ、そこはそこでしっかりと受け止めないと、心が先やか学力が先やって言ってしまうと、これは保護者の中にも二分します。学校はまず学力付けてくれなあかんのやっていう親もいれば、いやいや学校ではもう情で大丈夫です、あとは塾でやりますとか、いろんな親がいるわけですから。だからそこで順番をつけたらいけないというところが今回の委員会から出されている改革やと思います。そしたらそこで次にという時に並び方が変わるというところで、前となんで違うのっというところを見ると、逆にやはりそこに順位があるんじゃないかとなってしまう。落とすどころとしては順位を消したよ。番号を消したよ。それでもって前回と見比べた時に何が違うかと言ったら、市民も皆さんも前に1がない、2がない、そういうところで、結局落ちていく。皆さんの意見を聞いていると、1番2番みたいなところにいつてしまいそうになりますが今回言っているのはそれではないんです。

並び方は、次は変わってないけど、その次のビジョンの時に、もしかしたらもうちょっと順番も変わって並び方も変わっているかもしれない。でも同じものというふうにみんなが理解していけば、そこで順番が変わろうがまたは書き方が変わったり。皆さんの意見ももっと突き詰めるとやっぱりいや一番にはならない気がします。それで落としていいですか。

事務局

前回と順番が変わったっていうところで、こっちの力が入ってるんじゃないか、みたいなイメージを受けられるという部分だと思います。今のご意見も含めて、順番は前回のビジョンのように戻すけれども、やはり一つの課題として学力もあるので、これには力を入れていきますよと記述ということを考えていくのかなっていうように感じてはいます。そのかたちで考えさせていただければと思います。

委員

12 ページ下から2番目、中学校の方と小学校の方と順番を揃えた方

がいいなと思っていて、児童会活動が前に来ているので、中学校の生徒会活動を前にして、あと学習発表会、合唱コンクールだけを書いてあるので、などと付けたら収まると思いました。

11 ページの小学校の教科担任制を推進しますと書いてあるのは、みらい学園が教科担任制になるから入れているのか、他の小学校も教科担任制を推進していくのか、疑問なので教えてください。

事務局

そこについては、他の学校についても一定進めては行きますが、みらい学園と同じというわけにはなかなかいかないですし、もちろん加配があるのかないのかとか学校体制とかにもよりますので、もちろん学校ごとに進めやすい学校、進みにくい学校あると思うんです。小規模な学校はなかなか難しい面もあると思うので、そのへんも考えつつ、ただ、今全国的にも言われていることですので、一定推進というかたちでは考えております。

委員

ありがとうございました。

会長

現実的にはそういうのはされてる学校もあるかと思います。

委員

11 ページ、それぞれ鍵括弧で囲われている見出しがありますが、交野スタイルの部分だけ、他と書きぶり説明の仕方がなんとなく違うような感じがするんですが、皆さんどう捉えられていますか。最後の交野スタイルだけ、交野スタイルとも言える教育です。で終わっているんですが、それ以外はこういうことをします。こういうことをします。というカテゴリーですが、最後の交野スタイルだけこういうことをします。ではないんです。ここだけ特色ある教育活動を説明するポイントとして、ここはこのまま残すべきなのか、違う書きぶりをしたほうが伝わるのか、いかがでしょう。

委員

構想的にあるのではないかという気がして、交野スタイルという枠があるとしたら、その中核に 9 年間教育があって、ここで ICT 環境の充実とかきめ細かな指導体制っていうのがあるんじゃないか、ちょっと構造が見えるようなかたちで示された方が。そういうものを一括して交野スタイルという説明にした方が分かりやすい気がします。

事務局

今回、小中一貫教育っていう言葉は基本的には使用しないというところで、ここの素案の中で小中一貫教育っていう言葉の代わりに 9 年間教育っていう言葉っていうことを提案させていただきました。

あと、それとはまた別の視点で交野スタイルというのは、これまでも

交野の小中一貫教育のことを交野スタイルというようなことで進めてきましたので、小中一貫を年間教育に変えるんだけど、ここの 11 ページの一番下のところは一番初めの時は、もう少し幅を広げて幼・小・中・高っていうところまでを含む時を交野スタイルというイメージでという書き方をさせていただいていました。ただ、前回 9 年間教育というよりも、そこを交野スタイルの方が分かりやすいのではないですかという意見をいただきました。一方で、交野スタイルを小中一貫教育に変えると逆に分かりにくいという意見もいただいておりますので、そこも踏まえて今思っておりますのは、表紙にあります「9 年間教育」交野スタイルという言葉が載っていると思いますが、大きくはこのかたちを使わせていただく、ただ、一般的に小中一貫教育といっている代わりに使うのは今後 9 年間教育という方が割と 9 年間繋がる教育ですというのが保護者の方、地域も分かりやすいと思っております、そこを使わせていただきたいと思います。ただ、その中で交野の特徴のある取組みを交野スタイルという言葉を使っていきたいと思っておりますので、そこで 11 ページのところにあるこの交野スタイルというところは、もしそういうかたちでよければ、ちょっと書き方を変えていくのかなというふうに考えてます。今はまだ幼・小・中・高をつないだ時の交野スタイルというみたいな書き込みになっていますので、そこは定義を変えたいと言いますか、交野の特徴のある教育っていうところで、交野スタイルという言葉は使っていくみたいな書き方に変えていく必要があるのかなと思っております。

委員

(2) の特色ある教育活動のこの見出しの横に括弧して、交野スタイルとして、今ある交野のところには幼・小・中・高接続みたいなこの全体の「地域とともにある学校」「きめ細かな指導体制」「ICT 環境の充実」「9 年間教育の推進」幼・小・中・高の接続、全てを込みで特色ある教育活動交野スタイルみたいにどうですか。

会長

交野の特色ある取り組み、それが交野スタイルである。それから特色ある教育活動イコール交野スタイルである。

事務局

今現状というか、前の時には交野の小中一貫教育交野スタイルという言葉を使ってたので、一般的に小中一貫教育っていうのは 9 年間教育とさせていただいて、交野の 9 年間教育の部分は交野スタイルと呼ぶというようなかたちに整理させていただければと思っております。

委員

今回、みらい学園ができて、先ほど小学校も教科担任制とかいろいろと高校との接続とか、新たに入れていただいていると思うんです。僕た

ちもずっと交野スタイルということで使ってきて、今回新たな学校が出来て新たなスタートになるので、例えば、NEW交野スタイルとかインパクトのある名前の方がいいと思います。交野スタイルって結構素敵な名前と思って、交野の子どもはこのモデルで授業を9年間やっていくんだってというようなことがよくわかりますし、その部分っていうのを、従前の交野スタイルではなくて何か付けてみるとか、新たな時代交野スタイルとか、パッと今思いついただけなんですけど、そんなふうにしたらとても素敵かなと思います。そしたら私たちも前回9年間教育はっていうふうなことも言わせていただいたんですけど、新たな学校ができて、新たな教育課程になってきて、もう1回頑張ろうと今まで培ってきたことをもとに、子どもたちのために地域のために保護者の皆さんのために、もっと頑張っていけるといような気持ちになれると思います。そんな素敵な名前を付けていただくとすごく嬉しいと思います。

事務局

ステップアップというような意味合いも含めた上の、新しい交野スタイルというようなところです。

委員

前回の交野スタイルと小中一貫教育とある程度同じだとしたら、本来は小中一貫を9年間教育という名前に変えたので、またそれを交野スタイルに戻す必要はないと思います。先ほど言われたように、前回の交野スタイルから定義を変えてそれも含めた特色あるか所全部を交野スタイルだと。9年間教育を、例えばその括弧のところの一番下のところを交野スタイルをなくして、括弧のところを9年間教育として小中一貫教育とするのではなくて、保・幼・高校も見据えた中でやっていくような教育を9年間教育というふうな言葉でいっているよ、というふうに小中一貫教育と違うバージョンアップした広い視野を持ったかたちで通していくようなことを指して9年間教育ですというふうなかたちで、ここで説明すればこの書いてあることにもう少し上の言いぶりを加えて説明していけば、新たな定義だけちゃんと整理すればいいと思います。そうすることで9年間教育に変わったよってというあたりの説明も見やすくなると思います。

委員

9年間教育っていう名前に変えようと発想したのはもともと我々じゃないです。小中一貫教育を名前を変えようと誰かが言ってそれに応じたけども、応じた我々が変えた理由を今その言い訳を一生懸命議論している気がしてなりません。あまり意味のない話です。誰かが名前を9年間教育に変えようと言ったので、なぜ変えたのか我々がそうしたというふうな理由付けを今ここで議論している気がしてならないです。だから意識する必要はないと思う。なぜ名前が変わったのかと。聞かれたら理

由を言ったらいいのではないですか。

事務局

一番初めから教育大綱の内容も含めて教育委員会としても素案として出させていただいておりますので、そういう趣旨からで9年間教育ってことで行きたいということかなと思っています。なので、今のところは9年間教育という言葉は使わせていただきますけれども、今意見いただいたみたいに、交野スタイルという言葉はどういうような使い方をするかとか、交野スタイル名前そのものはNEWバージョンに変えるのかというところかと思っておりますので、そこについては名前を考えさせていただいて、バッチリな名前が思いついたらそういう言葉も使うけども、どうしても思いつかなかったら、このまま行くこともあるかなと。逆にもし、何か提案があればいただければそれも含めて考えさせていただければと思います。

委員

交野スタイルというからには、その枚方や寝屋川と全く違うようなことがあるんですか。9年間で交野スタイルに入っている子どもが、転勤で引っ越して違う場所に行ったら困るようなことはないんだろうとか、小中9年間交野に行かないで中学受験で他の学校に行く人もいるので、そういう人達が困らないシステムなのかと思います。

事務局

小中一貫教育っていうような言葉自体は国の方も定義を出しています。その交野の特色ということで、交野の小中一貫教育は、例えば今まででしたら3本柱ということで、外国語教育とプログラミング教育と言語活動、この3本柱っていうことで、小中一貫教育を進めますっていうようなことをやってきたんです。このへんが交野の特色みたいな感じで、これはただ他市に行ったら困るとかそういうことではなくて、今で言ったら例えば英語なら、英語プレゼン大会をやったりとか、プログラミングでプログラミング大会をやったりとか、率先してプログラミングのレゴマインドストームを入れてプログラミング授業やったりとかっていうような、そういう市の特色みたいなことっていうのは各市ごとにあると思います。そういうところで小中一貫教育の中でも交野らしい小中一貫教育っていうようなことを進めてきたっていう意味合いですので、別に他市と違うという意味ではなくて、ある意味の特色出し、みたいにイメージしていただければと思います。

委員

前から交野スタイルと使っているからそのまま使っているだけで、わざわざ根拠があって変えたわけではないでしょ。今言ったようなことを我々は交野スタイルとしていきたいので、そのまま続行するだけです。

- 事務局 ステップアップという意味合いで、NEW交野スタイル等ありましたけど、思いつくかどうかちょっと考えさせていただきます。
- 会長 今回のこの新しい教育ビジョンというのを出したので、それがもう一歩進んでいくという意識、そこに例えばNEW交野スタイルというような、今となって今度はもっと前に進むという意識です。それに合う言葉が次の時に出していただきたいと思います。
- 委員 3つの柱、外国語教育とプログラミング教育と言語活動これはもう書かないんですか。
- 事務局 もうやめてしまうっていうことではなく、どう扱っていくかだと思うんです。その3本をこう打ち上げて進めるのかというところで、中長期的に学校教育ビジョンということでさせてもらってますけれども、今後の特色みたいなところっていうのはこれだけではなく、今あります小中一貫教育指針というのがありまして、その中でやってきてるんですけども、そういうのもこれに合わせて変えていくことになりますので、その中で打ち出していくものかなと思ってます。
- 会長 今までやってきた教育の上であって、次にまた特化していく付けたしていくという意識で今までの進んだかたちになります。外国語教育であったり言語活動だったりというのは当然大事な力である。そこにまだこれからまた新しいNEW交野スタイルになるものがここから進むということです。
- 委員 今までの土台があって次へ進むことですよね。
3つの指針があって、それは今言う交野スタイルと別のものになると捉えるんですか。どう捉えたらいいんですか
- 事務局 別のものになるというか、今までやってきたものは当然今も継続してますし、今回コミュニティ・スクールみたいな地域との連携というところは今後力を入れていくことになると思っています。そのへんが次の小中一貫教育9年間教育っていうところで提示していく部分とは考えてます。先ほど言いましたけど、今ある小中一貫教育指針、次に9年間教育指針になるかどうか分かりませんが、そのへんの中で示させていただくことになるのかなと思ってます。
- 委員 特色ある教育活動として3つを指針にしてやってきたけども今回は書かないということですか。

事務局 これまでは3本柱みたいなイメージやってきてましたので、そういう3本柱みたいなイメージでやっていくのかというところで示させてもらうことになるかなと思います。

委員 3本柱は11ページの中で言うと、名前が9年間教育の推進に変えられていますが、その中の最初の一文の令和2年度から全ての中学校区に置いて小中一貫教育を実施してきました。この小中一貫教育というこの言葉の中にある3本柱というような認識で捉えています。なので、ここから飛び出して書かれる3本柱ではなく、この小中一貫教育の中、この進めるための軸として、私としてはそういう認識をして取り組んできてるところがあります。

委員 その軸が標記されなくて、どう呼んでいこうかなという感じですか。

委員 どちらかというと9年間教育というかたちになったところで、3本の軸もいろいろ新たな新しい交野スタイルの中で変えることができることを含めれるのではないかなと。もちろん、その3本の軸は残しつつ、新たな軸が発生してもいいんじゃないかなと思ってはいるので、この3本の軸をここに明記されてしまうと、その3本の軸のままになるので、もう1回そこから新たな軸が見えたらいいですけど。

委員 見えない。

委員 学校現場で新しく作っていくことか、このビジョンの中で明記されてそこに向かって取り組んでいくことなのか、ここはどちらの方がいいのかは言えませんが、教頭としてはそういうふうに捉えて進めてきたところもあります。

会長 こうして話を聞いたから今までの流れも分かるんですが、ここで言ったら、今のその9年間教育の推進の中にもこれまでの取り組みの手法や成果を踏まえ、よりというところに今までの次またステップアップしますよという言葉が入っているんでしょうけど、そのあたり分かりやすくということなので、ちょっと返しておきましょうか。

委員 一番最初に意見を出されたのは、その内容ではなく書きぶりの問題も指摘をされているかと思うんです。おそらくこの書きぶりが違うのは地域とともにから9年間教育の推進までは特色ある説明で、交野スタイルだけは交野スタイルという言葉の説明なので、これは離して括弧の中に

交野スタイルとはみたいなことで、交野スタイルの説明みたいにして入れられたら、元々のここに書かれた意図に沿うのではないかと思います。その時にさっきから出てるような内容を少し反映させて、交野スタイルがわかりやすいようにされたいと思います。これも特色ある並びに並べてしまうとちょっと話が。文言も今説明的な文言でしかないので。

事務局 ここは再度検討させていただきます。

会長 よろしければ、第2章の方は終了させていただきます。
それでは第3章ご説明をいたします。

事務局 それでは第3章について説明させていただきます。16 ページでございます。こちらの適切な学校運営につきましては、先ほどの活力ある学校ということで変更をさせていただきたいと思います。

下の赤色表示の部分ですが、前回の審議会の時にもお話しさせていただきましたとおり、幼・小・中の幼について幼稚園と捉えられる可能性がありますことから、幼児教育と学校教育の円滑な接続へと変更をしております。

同じく 16 ページの一番下の「観点」ですが、前回の審議会において観点をここに示しているのかとのご質問があり、回答ができておりませんでしたので、併せてお答えいたします。

観点については、今現在の学校教育ビジョンを引き継いでいるという部分もありますが、学校教育ビジョンについては、このページに示されている基本目標、施策の柱、またそれを実現するための基本施策が示されておりますが、それぞれの施策を進めるにあたって、交野の教育については、表紙にも示しているとおり「義務教育9年間の質を変え、確かな学力を育てる」「9年間教育」交野スタイル」ということを示しておりますので、各基本施策を進めるにあたって、9 年間教育を意識しながら進めていくということで、観点としてこちら示しているものです。

17 ページの緑カッコについては、記載内容について再考を求めるご意見がありましたので、記載内容について再考いたしまして変更をしております。

18 ページですが、部分的に表現がおかしい、文言の整理が必要であるとのことご意見・ご指摘をいただきましたので、再度見直しを行いまして変更しております。

19 ページ緑カッコは、審議会後、委員の方によりご意見をいただきましたので、変更を記載しております。

同じく 19 ページの赤色部分ですが、前回の審議会において、施策の中に「ネットリテラシーの向上」や「情報モラル教育」を取り入れてほ

しいとのご意見がありましたので、単独の施策ではございませんが、「情報活用能力の育成」に「情報リテラシー教育、情報モラル教育を推進します。」ということで入れさせていただいております。

次に 20 ページです。緑カッコですが、カッコ内に言葉を足しましたので一番下の行が切れております。そこは前回の資料にありましたとおり「質の高い給食を提供するとともに、更なる学校給食費の段階的無償化を進めます。」という文言が隠れている状態です。

20 ページは、中ほどに「小学校の教科担任制」を新たに記載しました。また、その他は主に義務教育学校に関する文言修正を行いました。

21 ページの「文房具として」という部分につきましては、前回の審議会後に委員さんより「学習ツールとして」とのご意見をいただきましたので、表記しております。

同じく 21 ページ学校給食関係について、4 点もいらないのではとのご意見がありましたので、再検討し、表記のとおりの変更をしております。

25 ページ一番下「あつまれ本好きの森プロジェクト」について、公共図書館と学校図書館の役割は異なるものである。ここに並列すると公共図書館も授業にかかわるのかと思われ違和感があるというご意見がございましたので、主体を明確にするために「教育委員会事務局が実施する」という文言を追記しました。

26 ページは、小・中学校の表現の変更と「外部機関における各種体験活動に実施」に「地元高校」を追記しました。

28 ページですが、施策にあります 1 番目「小中 9 年間のカリキュラムの活用」については、掲載しておりますが、前回の審議会の中で議論がありましたが、こちらについては、削除することとさせていただきたいと考えております。

29 ページにつきましては、基本施策「学び続ける教職員の育成」に新たに施策として「教職員の専門性の向上」を加えました。こちらにつきましては委員ご意見をいただいております、1 行目の教職員が児童生徒の実態に応じた適正な指導を行うためにつきましては、きめ細やかな指導を行うためというふうに変更してはいかがかというご意見をいただいております。

第 3 章については以上です。

会長

ご意見ありますでしょうか。

事務局

追加で 24 ページ、一人一人の教育的ニーズに対応とありますが、ここは主に生徒指導関係のことを書いているんですが、教育的ニーズであったり個別の教育的ニーズとか多様な学びの場とかあるんですがここ

は確認してからになりますが、主に支援教育の中で使われている文言の定義と混同しやすいので、生徒指導関係のところでもう一度確認をして違う言葉に言い代えが可能であればそちらを使いますし、これが一番伝わるとなれば動くかもしれませんが、もう一度検討させて下さい。

委員

多様な背景を持つ、児童生徒への生徒指導という言葉が出てきています。いわゆるいじめとかいろいろな不登校とかの背景には学校の要因だけじゃなくて、家庭要因とか社会的な要因がいろいろ絡んでいて、それに対して適切な支援をしながら生徒指導していこうということで、今までのように指導だという感じではなく、サポートをしながら健やかな成長ということを考えてのことです。22ページに、発達支持的生徒指導とありますが新しい言葉です。今言ったようなことが含まれていると思うんですけども、ここももう少し分かりやすいように説明をお願いします

委員

今インクルーシブ教育という言葉が出てきていますが、本当に子どもたちの現状は多様化してきています。その多様化に対応するにあたって今現状の教員の体制では、なかなか工夫をしてもしきれない部分があります。今実際その苦しいところを助けてもらえている制度として、学校支援員制度というのがありまして、そのうちの1つがここに出てる日本語指導の支援員であるとかって書かれています。先ほどの生徒指導のこともあったんですけども、生徒指導支援員ということもありますし、支援教育支援員というようなかたちによって、いろいろな学校支援員ということで、教員ではない立場の人が入ってきていただいている子どもたちの対応にあたって、苦しいところに手を差し伸べてくれているというような状況になっています。その部分を充実するような施策も見えるようなかたちになればいいのではと思うところもありますが、いかがでしょうかというところと、多様化というところの中に命の安全のところに関わるんですけど、最近、食物アレルギーを持つ子どもがすごく増えてきた気がします。エピペンを所持する子どもも本当に増えてきています。夏の暑さに対する熱中症対策、医療的ケア時の受け入れ、1型糖尿病とか、コロナ禍以降ですが、インフルエンザが思いもよらない時期に発生したり、今もマイコプラズマや手足口病が猛威を振っている状況で、コロナ禍以降の様々な感染症の流行であるとか、体力の低下も怪我とか体調不良、ちょっとしんどい、熱はないんだけど頭が痛いというような子が非常に増えているような印象があります。このビジョンの中では、子どもの学校の安全確保について、地域とともにある学校の中で、登下校の安全とか防犯上の安全とか、外の部分の安全っていうのはすごく打ち出されているような感じがするんですが、その学校の中の安全について、もう少し強化するような施策があってもいいのかなという

ふうに感じます。

この安全の保健関係に関して専門的知識を持っているのが養護教諭になるんですが、交野の学校の規模でいくと、ほとんどの学校で一人体制になっています。養護教諭がひとたびお休みだとか、研修だとか、救急搬送で学校から離れるっていうことになる、非常にリスクを抱えた状況に追いやられています。そういったところを安全を確保するような命を保証するような学校を作っていければいいかなと思っています。そのこの部分の充実した施策がなにか明記できたらいいんじゃないかなというふうに思っています。

その安全からいくと、地域医療との連携も打ち出せないかなというふうな気がしています。最近その校内で発生した事故等があると、病院を受診した方がいいかなと迷う場合があるんです。明らかにこれは重大な事故で、もう救急搬送だっていう場合は救急車を呼ぶんですが、そうではないあんまり救急車を呼ぶほどではない、でもこれはちょっと見といてもらいたいって言った時に病院を探すんですが、なかなかうまく見つからないというような場合があります。

最近、厚生労働省が定めた医療選定費っていうのが出てきてまして、大きな総合病院とかで見ていただくと 7,000 円かかるんです。この 7,000 円っていうのが、交野市で入っていただいているスポーツ振興センター災害共済給付の対象外になっていますし、子ども医療助成とか一人親家庭の医療助成とかでも対象外になっていまして、急遽その病院しか見てもらえないというところで連れて行ったら、それが掛かってしまうという現状があります。ここも今後非常に課題というところはあるんですが、それに対して対策を今立てられるかという具体的な案はないんですが、そういったところも医療と学校との教育との医療との連携が強化されることで、こういった中で新たに生まれる課題に対して対応できるビジョンが持てたらと思っている次第です。

委員

今おっしゃっていただいたことは凄く大事なことでと思います。インクルーシブのところで、支援員とありましたが、各自治体、支援員にお世話になりながらやっているのはどこの自治体もそうです。今そこで問題になってきているのは支援員の研修をどうするのかということです。

支援員を付けていただくと同時に研修制度もしっかりしていただかないと、人は来るけどぜんぜん専門性がないということになってしまいます。インクルーシブを本当に進めて行こうと思うと、これから医療ケア児が通常学級に入ってくる可能性は十分にあります。交野支援が医療ケアが出来るので連携を取っていくのは大事ですが、医療ケア児がこれからインクルーシブが進むにつれて通常学級の中に入ってくるということも踏まえて保健室医療教諭を増やして医療ケアも出来るようにと

か、具体的なところをやっていかないと、実現しないところなので可能であればインクルーシブや健康教育のところに加えていただければと、今お聞きして思いました。

会長

財政難の交野市ですが、支援員制度もやったださっていると思います。中々それが保護者の方々、市民の方々に見えないんです。だけど、それが十分かというと全然十分じゃないです。もっともっと必要で国は簡単には定員を増やしてくれないので、それぞれの自治体が必死になって工面しないといけない。

委員

16 ページのところで、先ほど幼・小・中連携の充実を幼児教育と学校教育の円滑な接続への変更っていうようなことで言っていたんですけど、この話の中で地元高校とか大学が実際に阪大を見に行ったりとか交野高校とか、今先生がおっしゃった交野支援との連携っていうのも、いろんな面で出てくると思うんですけど、高校教育との接続とかっていう部分はもう入れないということですか。

事務局

高校教育は高校なんかとの連携を進めていけたらなと思っているんです。その高校教育への繋がりっていうスタンスなのか、どうかっていうところは考える必要があると思っています。

事務局

進路を考えるっていう点では、見学に行つてつなげると思うんですが、幼小のようにある程度カリキュラムを見ながらとなると、なかなか高校以上になってくると難しいところがあるので、文言としては幼小で書いています。高校までは書き込んではいないんですが、今コロナで一旦途切れていますけど、交高の実験教室とか、そういう小学生のうちから高校とか大学ってこんなところだっていう一種の体験を広げるような活動としてはやっていきたいと思っているので、幼小幼児教育と学校教育の連携というところとは、また少し質が違うかなというところで幼小で留めています。

委員

先日交野高校の校長先生が来られて各中学校を回られました。地元の高校っていうこともあるんですけど、中学校ともどんどん連携を密にしていきたいとおっしゃっていたので、校長先生のお考えも考えると別枠でもいいんですけど、あってもいいかなと思ったので質問させていただきました。

事務局

今交高も交野の子どもたちが2割ぐらいしか居てないと言われてますので、交野の子どもたちも交野高校がこんな学校と知ってもらった上

でそこを選んでくれるとそれはそれでいい話だと思います。そのへんの取り組みは入れていきたいと思いますし、そこを書き込めるかどうか、ちょっとまた検討です。

委員

先生方もいろいろ大変な思いをされて熱い思いを聞いた中で、うわべだけでちょっと話すのはあれなんですけど、この前ちょっと僕の方から要望をお話しさせていただきました、リテラシーの話とか情報モラルの話で、文章を入れていただいてすごくうれしく思うんですけども、この文章ですと、子どもたちに対してのみというような印象を受けるんです。私がちゃんとお伝えできてなかったかなと思うんですけど、子どもたちは当然なんですけど、学校の教職員の先生方にも意識を高めていただきたいですし、市教委の方も意識を高めていただきたいというところで、そこらへんを絡めた文言にしていきたいと思います。先生方も意識がないと言ってるわけじゃないんです。意識があるからこそ、先生方の立場を守るためにもそういうことが出てこないように、交野市全体でそういう意識を高めていけるように、そういうふうな書き方をしていたいただきたいなと思います。

事務局

実際に先生方にそういう研修とかは、かなりやらせてもらっている中、そのへんが読み取られないということなので、ちょっと工夫させてもらえればと思います。

事務局

見え方としては薄いんですけども、29 ページに教員の育成ということで、研修で資質向上に関わる研修っていうことでは書いているんですけども少し見えにくいということですね。

委員

複合的な問題になると思うので、どこに入れるかというのはちょっと難しいかと思うんですけど、思いといたらそういう思いでお伝えさせていただきます。

事務局

そこは十分わかってはおります。どうにかたちで入れるかがちょっと難しい部分でもあるので、例えばここではビジョンとしては大きく入れさせてもらって、例えばアクションプランの方で研修という方法もありますので一度検討させてください。

委員

学校教育ビジョンが一番関係あるのは現場の先生方だと思いますんで、先生方に向けてははっきりと分かっているような書き方の方がありがたいかなと思います。

委員 ヤングケアラーの問題ですが、2025年には65歳高齢者で5人に1人は認知症で、今年度からケアマネのテキストが改定になったところで、ヤングケアラーという文言が入りました。子ども本人とか家族に自覚がなく周知しづらいので24ページあたりに入れていただけたらと思います。

会長 よろしいでしょうか。

事務局 検討させていただきたいと思うんですが、先ほどご意見があったような多様な背景を持つ、子どもたちの一つのカテゴリーとしてもヤングケアラーは今とても大切な問題だと思っています。学校の中でもそういった視点で子どもたちを見守ることが常日頃しているところですが、一方でヤングケアラーの実態というものは、国として自治体として大がかりな調査がなされたということは実はありませんので、この子どもたちがヤングケアラーと思われるだろうというのは学校だけが対応できるものではないので、それはいろんな多様な機関と連携しながら進めるというかたちになるんですが、ここでヤングケアラーと明記することによって、例えばヤングケアラーを洗い出すためのアンケート調査が実際に必要になってきたり、具体的にそれを学校が知ったということは、それに対する何らかの対応を当然求められますので、それが学校単体でできるものなのか、福祉部局との連携も当然必要になってくるかと思っていますので、当然大切なことだとは認識しているのと同時に、書き方についてはとても難しいものもあるかなと思います。

事務局 ヤングケアラーの対策は福祉的な側面もあるので、学校教育という位置付けでそれを捉えていくのかっていうところも、当然連携してはやっていくんですけども、そのへんでどう書き込めるかというところかなと思います。

会長 他にございませんか。
それではこのあたりで第3章は終わりにしたいと思います。
その他、としてありませんか。

委員 先ほど委員が言われましたが、学校の先生方が対象だと思うんですけども、これはホームページで交野市民は見ますので。私もこのページを打ち出しましたけどもやっぱり硬いです。全体的に文字ばかりで。思い付きで申し訳ないんですが、冒頭に小学校2・3年ぐらいの児童の学ぶ喜びというか、そういう詩か作文があればいいかなと思っています。

交野スタイルにも NEW 交野スタイルですから、難しいですが冒頭にあるのが非常に交野市民には効果的だと思います。

事務局

内容をご審議いただいていますので、最終完成した時には写真をちりばめたりとかそんなことはさせていただきます。

会長

本日も皆さんのたくさんのご意見をいただきました。

会長

他にございませんか。
ないようでしたら、以上で本日の審議会は閉会いたします。